

(75)

1995年(平成7年)1月1日 日曜日

第1版

第3版

第4版

第5版

第3種郵便物認可

巨大な岩が崩れ、  
状に並ぶ「神殿」



# 与那国

## 海原遺跡

竜宮伝説を探る



与那国島新川島の海底にそそり立つ「海原」

# 「古代ローマ」ぼうぶつと

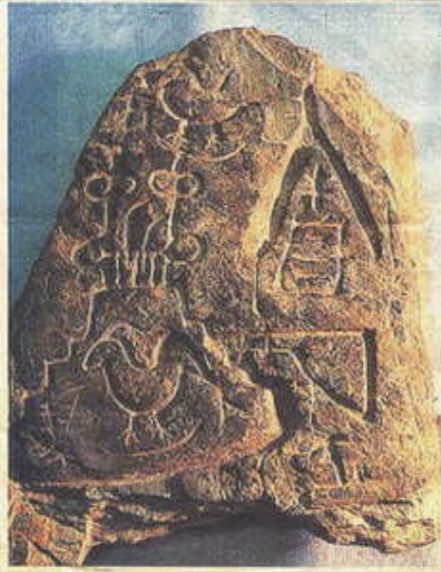
ケラマギヤップで取り出した陸上動物の化石を手にする木村政昭助教



木村政昭助教は、ケラマギヤップで取り出した陸上動物の化石を手にする。この化石は、約100万年前のものと推定されている。木村助教は、この化石の発見が、与那国島の地質学的な重要性を示していると考えている。



岩についた一本の切り込み状の跡

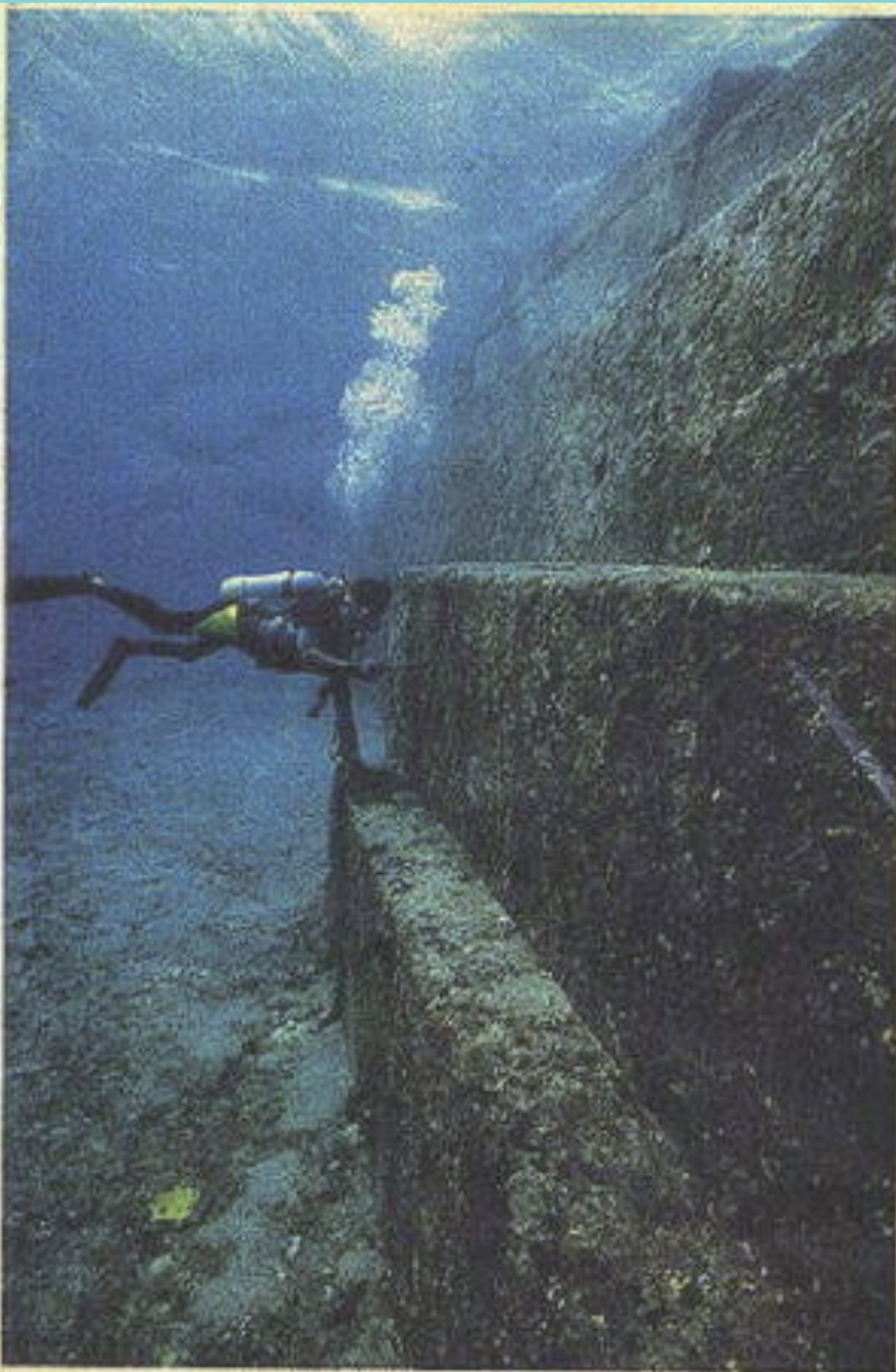


一九八四年、米空軍基地手前基地に近い北谷の場で出土した、鳥や舟などの絵文字を彫り込んだ磨崖石版(岩壁に彫られた絵)

# 岩壁に彫られた絵

一九八四年、米空軍基地手前基地に近い北谷の場で出土した、鳥や舟などの絵文字を彫り込んだ磨崖石版(岩壁に彫られた絵)。この絵文字は、縄文時代のものと推定されている。研究者は、これらの絵文字が、当時の人々の生活や信仰を反映していると考えている。



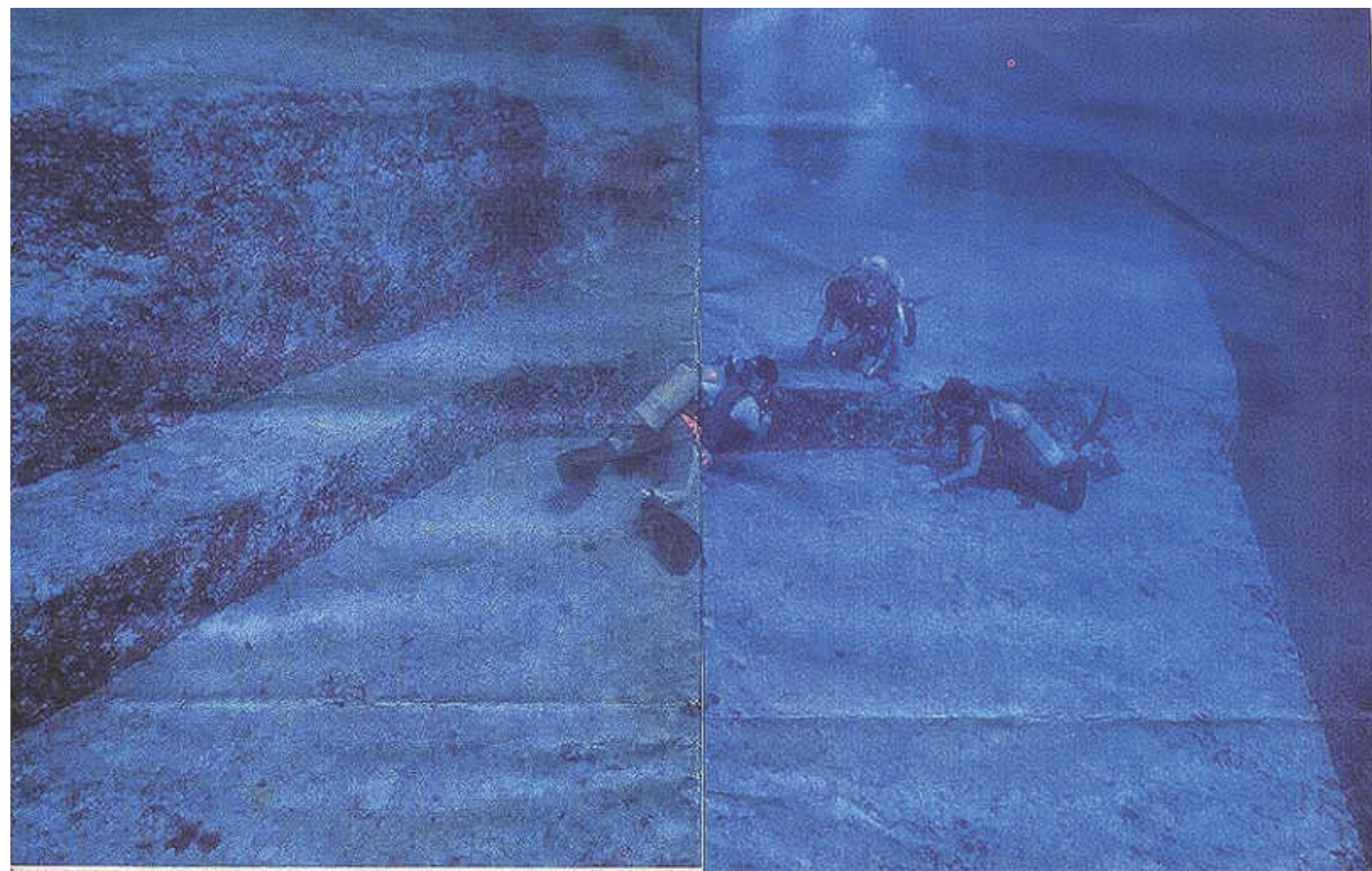


東西に延びる与那国島の海辺の遺跡

# 与那国に ナゾの遺跡

水没した  
に巨石 地殻変動で水没か

日本領西端にある与那国島  
島の南端に亘る「遺跡」  
が見つかった。地元でタイ  
ヒンシヨウツン「サーヴェ  
ス」を営業する調査者の新  
発見は、島の歴史によ  
ると「遺跡」の長さは約百  
メートル、幅は約十メートル  
から十メートル、東西に延び、  
海に面した部分には、  
石造の遺構が確認された。と  
発表された。調査は、  
東洋大学の琉球人類学部の水  
村敏明助教は、陸上にあ  
った遺跡が、地殻変動で  
水没したと推定する。なほ  
とロマンに満ちた「遺跡」  
「遺跡」を求め、与那国島に  
つてきた。第一巻には、  
遺跡、第4巻は、15冊に及ぶ  
「写真と文・新発見」、  
「琉球の歴史」の調査報告書



与那国島の水深154mの海底で見つかったなぞの「遺跡」。

巨大な岩が「神殿」のように階段状に並ぶ。(写真特集75p)

(写真＝新藤 建一、那井保政共同通信写真部員)

## 与那国などの海底遺跡

魔宮伝説を探る



# 与那国の「海底遺跡」

## 学術調査でなぞ解明へ



学術調査が行われる「海底遺跡」→与那国島近海



水中呼吸器を見ながら発見者の新井さん(右)に現場の様子を細かく尋ねる石井助教授

### 「人工」の可能性高まる

#### 石井・東 規模に大助教授

【東京】与那国島で発見された「海底遺跡」は、人工のものか自然のものかに関心が集まっているが、発見者の新井さん(八郎)が新たに撮影した多数の水中写真と石のサンプルの調査を受けた東京大学海洋学研究所の石井助教授は、「天然のものではありえない」として当初の見解に「ますます思いがなくなった」と語り、海底遺跡の可能性を強調した。石井さんは「古い時代から凡田で造船が盛んで、『これ』とも述べ、学術調査の必要性を指摘している。関係調査についても「ぜひやりたい」と話している。

### 驚き

石井助教授は去る一月、郡内で新井さんと会い、写真や石のサンプルを眺めながら「現場の状況について詳しく話を聞き、まずまず人工物という印象を深めた。石井助教授によると、天然のものかを確かめるには「石の材質と同時に、四方の方向や角度を調べる必要がある」と、与那国の「飛鳥遺跡」では、特に、溝がどの方向に走っているかを正確にたけねばならないという。「どうして南北、あるいは東西方向でなければならぬ」というように、人工物の強い特徴があったらどう

かが、人工か自然かを判断し、いつまで経っても「人工」か「自然」かについては「確信」を得られなかった。また、そのスケールの大きさにも驚き、同じ大きさのものを例として、たいてい「人工」か「自然」かを判断する必要がある。石井助教授は「人工」か「自然」かを判断する必要がある。石井助教授は「人工」か「自然」かを判断する必要がある。石井助教授は「人工」か「自然」かを判断する必要がある。



サンゴ礁のファンタジー

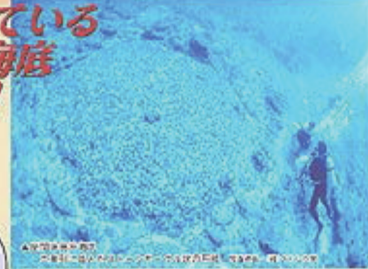
目のさめるような南国のきらめき、  
まるで、空や海と溶け合っているか  
深いエメラルドの色



サンゴ礁のファンタジー  
目のさめるような南国のきらめき、  
まるで、空や海と溶け合っているか  
深いエメラルドの色



学術的裏付けが急がれている  
与那国島座間味島沖海底  
巨大構造物発見!!



▲座間味島の沖に現れた「サウザンホウ  
座間味島の沖に現れた「サウザンホウ」



観光とは感動との出会い

李喜 貞秀

観光とは感動との出会い。それは、観光客にとって最も大切なことである。感動は、観光の目的であり、観光客が観光地を訪れる理由である。感動は、観光客の心を捉え、その心を豊かにする。感動は、観光客の記憶に残り、その記憶を糧として、観光客が再び観光地を訪れることを促す。感動は、観光客の心を豊かにし、その心を糧として、観光客が再び観光地を訪れることを促す。感動は、観光客の心を豊かにし、その心を糧として、観光客が再び観光地を訪れることを促す。

今 沖縄観光を考える



「沖縄の海底遺跡」について

水村 政昭

「沖縄の海底遺跡」について。沖縄の海底には、数多くの遺跡が存在する。これらの遺跡は、沖縄の歴史と文化を伝える重要な手がかりである。しかし、これらの遺跡は、自然の侵食や人為的な破壊の危険にさらされている。したがって、これらの遺跡を保護し、その価値を高めるための取り組みが必要である。この取り組みには、学術的な調査と、観光客への適切な情報提供が不可欠である。



海底遺跡に夢を託す

小浜 竹

海底遺跡に夢を託す。沖縄の海底には、数多くの遺跡が存在する。これらの遺跡は、沖縄の歴史と文化を伝える重要な手がかりである。しかし、これらの遺跡は、自然の侵食や人為的な破壊の危険にさらされている。したがって、これらの遺跡を保護し、その価値を高めるための取り組みが必要である。この取り組みには、学術的な調査と、観光客への適切な情報提供が不可欠である。



沖縄観光の豊かな素材

塩川 正房

沖縄観光の豊かな素材。沖縄には、数多くの観光資源が存在する。これらの資源は、観光客にとって魅力的であり、観光客の心を豊かにする。したがって、これらの資源を適切に活用し、観光客への適切な情報提供を行うことが重要である。このためには、観光客のニーズを把握し、そのニーズに応じた観光サービスを提供することが不可欠である。



「ヤンパリゾート」をめざして

山里 隆晃

「ヤンパリゾート」をめざして。沖縄には、数多くの観光資源が存在する。これらの資源は、観光客にとって魅力的であり、観光客の心を豊かにする。したがって、これらの資源を適切に活用し、観光客への適切な情報提供を行うことが重要である。このためには、観光客のニーズを把握し、そのニーズに応じた観光サービスを提供することが不可欠である。



沖縄の観光について

植原 志

沖縄の観光について。沖縄には、数多くの観光資源が存在する。これらの資源は、観光客にとって魅力的であり、観光客の心を豊かにする。したがって、これらの資源を適切に活用し、観光客への適切な情報提供を行うことが重要である。このためには、観光客のニーズを把握し、そのニーズに応じた観光サービスを提供することが不可欠である。



観光振興と具体的な取り組み

中郷 浩一

観光振興と具体的な取り組み。観光振興には、具体的な取り組みが必要である。この取り組みには、観光客のニーズを把握し、そのニーズに応じた観光サービスを提供することが不可欠である。このためには、観光客のニーズを把握し、そのニーズに応じた観光サービスを提供することが不可欠である。



沖縄観光を どうアピールして行くか

大城 浩

沖縄観光を どうアピールして行くか。沖縄観光をアピールするためには、適切な情報提供を行うことが重要である。このためには、観光客のニーズを把握し、そのニーズに応じた観光サービスを提供することが不可欠である。

